

学会認定・臨床輸血看護師がさらに活躍するために ～e-Newsの活動報告から見えてきた現状～

岩尾 憲明

キーワード：学会認定・臨床輸血看護師，学会ニュースレター，活動報告

はじめに

2010年に学会認定・臨床輸血看護師制度が発足して以来，学会認定・臨床輸血看護師（以下，臨床輸血看護師）が各地の医療機関で活動している。筆者はかつて日本輸血・細胞治療学会（以下，本学会）の（旧）情報出版委員会では会員間のコミュニケーションを図ることを目的としたニュースレター（e-News）の発行に2013年12月の第1号から2019年の第17号まで携わり，会員活動の記事の一つとして「臨床輸血看護師の活動報告」を定期的に掲載してきた。今回，これらの活動報告の記事を通して見えてきた臨床輸血看護師の活動の現状と課題について報告し，その存在意義と可能性について述べたい。

臨床輸血看護師の活動状況

e-Newsに掲載された活動報告の一覧を表1に示す。臨床輸血看護師の活動内容は，「安全な輸血医療・輸血業務」，「輸血教育」，「ネットワークの設立」，「他施設・他職種との連携」と多岐に渡り，さらにI&A視察員の活動も行われている。

安全な輸血医療・輸血業務

臨床輸血看護師の部署が異なると個々に現場で適正輸血に取り組んでも全員が集まって活動する機会がなく，各現場の課題を話し合うことも難しくなる。このような問題には院内の臨床輸血看護師がすべて集まる小ワーキンググループを発足させることが有効な対策となる（阪口，表1-6）。それにより臨床輸血看護師が，輸血に直接かかわる現場の看護師の意見や問題点を把握することができ，輸血実施の確認ツールや超緊急輸血の手順の作成など安全で適正な輸血につながると考えられる。

臨床輸血看護師の重要な役割の一つは輸血の安全性

の向上に寄与することである。輸血ラウンドは臨床輸血看護師がその役割を果たすための組織横断的な活動として重要である（井上，表1-5）。輸血ラウンドを多職種で連携して行うことで現場での輸血実施状況を把握すると同時に，現場で困っていること（血液製剤の取り扱いの不備，緊急時の輸血準備状況の確認困難，輸血副作用報告の遅れ等）も明らかになるので，これらの問題点の改善のために組織的な取り組みを進めることができる。

手術では輸血の使用量が多く，安全な輸血のために多職種の連携が求められるので，手術部門においても臨床輸血看護師が輸血に関する多職種連携のコーディネーターの役割を果たす意義は大きい（豊島，表1-7）。手術室の多職種参加カンファレンスでインシデントの共有・分析を行うことにより互いに気づかなかった問題点が明らかになるなど，連携体制が整備されることで手術部門の問題に対して現状に沿った対策が可能になる。

小児・新生児の輸血では院内で分割された血液製剤（分割製剤）がNICUで使用される場合があるが，安全な使用のために分割製剤の適切な取り扱いが求められる。そのためには臨床輸血看護師が医師や臨床検査技師と協力してNICUでの分割製剤の使用実態を調査し問題点を明確にし『新生児・小児輸血のための分割製剤取り扱いマニュアル』を作成した（高尾，表1-8）。臨床輸血看護師らが現場との協議を重ねて分割製剤の使用手順の取り決めを行い，取り扱いマニュアルを作成することで現場の業務手順が標準化されて小児・新生児の輸血の安全性の向上が期待される。

輸血のインシデントは「思い込み」，「勝手な判断」，「不十分な確認」，「集中力の欠如」，「焦り」，「院内輸血マニュアルからの逸脱」などが発生要因として挙げられ，その背景には看護師の知識不足やリスクに対する

表1 e-News 臨床輸血看護師の活動報告記事 一覧

e-News	発行時期	執筆者	所属施設 (執筆当時)	活動報告のタイトル	
1)	2号	2014年2月10日	佐々木悦子	青森労災病院	臨床輸血認定看護師の活動について
2)	3号	2014年5月8日	松本真弓	神鋼病院	アフエーシスナースの活動について
3)	4号	2014年7月8日	山崎喜子	青森県立中央病院	I&A 視察員資格を取得して
4)	5号	2014年10月8日	西谷智穂	立正佼成会付属佼成病院	第138回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会で発表して
5)	6号	2015年3月18日	井上有子	熊本大学医学部附属病院	病棟ラウンドと看護師の関わりについての紹介
6)	7号	2015年11月26日	阪口真紀	大阪市立大学医学部附属病院	輸血委員会小ワーキング活動による安全かつ適正輸血への取り組み
7)	8号	2016年4月13日	豊島麻実	防衛医科大学校病院	手術部門における安全な輸血体制構築の取り組み
8)	9号	2016年10月5日	高尾真由美	山口大学医学部附属病院	新生児・小児輸血のための分割製剤の取り扱いマニュアルの作成
9)	10号	2017年1月17日	落合やよい	宮崎大学医学部附属病院	輸血・細胞治療部の看護師業務の取り組みと課題
10)	11号	2017年6月6日	高木尚江	岡山大学病院	「活動への壁」からヒントを得て、臨床輸血看護師の目指すべき姿を探る!
11)	11号	2017年6月6日	中川美子	がん・感染症センター都立駒込病院	「アフエーシスナースネットワーク」設立に向けて
12)	12号	2017年10月3日	石井洋子	船橋市立医療センター	輸血演習を取り入れた臨床研修医への輸血教育
13)	13号	2018年2月9日	甲斐純美	福岡大学病院	福岡県学会認定看護師連絡会の活動報告
14)	14号	2018年5月21日	高橋理栄	NTT 東日本札幌病院	院内の輸血過誤防止における臨床輸血看護師の役割
15)	15号	2018年10月8日	森美恵子	大垣市民病院	学会認定・臨床輸血看護師の役割と輸血リンクナースによる輸血教育の試み
16)	16号	2019年1月17日	鈴木浩子	済生会前橋病院	群馬県合同輸血療法委員会輸血関連認定看護師会の活動に参加して
17)	17号	2019年5月8日	中西由香, 橋口友恵	JR 東京総合病院	関東甲信越支部例会での発表を経験して

認識不足があると考えられる (高橋, 表 1-14)。

輸血教育

安全で適正な輸血実施のために臨床研修医への教育は不可欠であり, 特に「輸血実施」は『臨床研修医が単独で行ってよい医療行為』となっているので, 医療事故防止の観点から臨床研修医に対する輸血教育は重要である。実践的な輸血の知識を習得させるためには座学の講義だけでなく, 輸血演習を取り入れることが有効である (石井, 表 1-12)。講義と模擬輸血バッグを用いて輸血認証から輸血セットの接続まで行う演習により臨床研修医は現場での輸血実施手順を理解し, さらにインシデント報告の分析結果を踏まえたフィードバックを受けて輸血と医療安全を体系的に学ぶことができるので理解度と満足度が高まると考えられる。

輸血部門に所属する臨床輸血看護師やアフエーシスナース, 学会認定・自己血輸血看護師が末梢血幹細胞採取や自己血採血の看護業務を担当する以外に病棟看護師が応援看護師として業務を行う場合があるが, 看護師によって知識や経験, 技術の習熟度に違いがある。そこで, 認定資格を持つ看護師が知識・技術の評価表の作成や看護手順, 緊急時の対応手順の整備などの輸血教育を行うことで応援看護師が必要な知識や技術を習得することで不安なく業務を担当できるようになる (落合, 表 1-9)。

看護師は院内の輸血研修会や部署勉強会に参加できないことが多く, 輸血に関する知識・技術レベルを維持するために臨床輸血看護師だけで全ての看護師の輸血教育に関わることは難しい。そこで, 各部署から選出された輸血リンクナースと協力して教育を行う取り組みがなされている (森, 表 1-15)。知識研修などの現場教育はリンクナースが中心となっており, 臨床輸血看護師はリンクナースが一定レベルの知識を持って活動できるように支援する教育体制が構築されている。臨床輸血看護師が安全な輸血医療の実践のために看護師への継続した教育活動を行うことは重要である。さらに山崎らもインシデントレポートの分析によって臨床輸血看護師による看護師教育の重要性を報告している¹⁾。

ネットワークの設立

末梢血幹細胞採取の安全な実施と同時に採取中の苦痛軽減など患者の援助のためにアフエーシスナースの役割は重要である (松本, 表 1-2)。アフエーシスナースは幹細胞採取業務にかかわる疑問や悩みを互いに相談しあっていることから, 他施設のアフエーシスナースと交流して情報を共有することによる必要な教育の継続を目的としたアフエーシスナースのネットワーク設立の取り組みが行われている (中川, 表 1-11)。

他施設・他職種との連携

他施設の臨床輸血看護師や他職種との連携は臨床輸血看護師間の交流の機会となり、院外の活動の広がりにもつながる。

福岡県では学会認定看護師連絡会が中小規模病院の臨床検査技師や看護師を対象とした輸血研修会や学会認定看護師ブラッシュアップセミナーを実施している(甲斐, 表 1-13)。群馬県では輸血関連認定看護師会が情報交換会や勉強会を開催し、合同輸血療法委員会の活動の一つの病院間相互訪問にも看護師会のメンバーが参加して看護師の視点からの意見を述べるなど積極的に活動している(鈴木, 表 1-16)。

I & A 視察員の活動

I & A (輸血機能評価認定) は第三者による輸血実施体制の点検評価を受けて輸血の安全を保証するシステムであり、臨床輸血看護師が視察員資格条件に追加され、その数が増えつつある。輸血の現場では看護師がかかわる点が多いので看護師の目線で点検を行うことは重要である(山崎, 表 1-3)。

現在の臨床輸血看護師の状況

本学会ホームページに掲載されている学会認定・臨床輸血看護師制度都道府県別認定者数²⁾によれば、2019年4月時点の認定者総数は1,376名であるが、更新状況は対象者総数622名に対し更新者の累計は396名にとどまっている。

現状の課題

意欲を持って臨床輸血看護師の資格を取得しても臨床輸血看護師同士の繋がりがなく活動について情報交換ができない、所属部署の輸血実施件数が少なくスタッフの輸血への意識が低い、診療報酬で算定されない資格は病院で重視されない、輸血認定医不在の病院では認定資格の価値が認められない、などの要因のために認定資格を活かした活動ができない現状がある³⁾。これらの問題が認定資格を更新されない一因かもしれない。

臨床輸血看護師がせつかくの知識とやる気を発揮できない背景には様々な「活動への壁」が存在する(高木, 表 1-10)。身近な臨床現場で「活動への壁」に向き合い、そこから見えてくる問題点を解決すべく動き出すことが活動のはじまりとなる。臨床輸血看護師の資格を取得しても周囲に仲間がいなければ暗中模索の状態活動を開始することになる。それでも院内で資格取得者であることが認知されると、輸血インシデントの分析や研修会の開催、輸血マニュアルの改訂など、

活動の場が広がっていく(佐々木, 表 1-1)。資格を取得しても活用方法を見出せない時は自施設内で考え込まずに学会等に参加して困っていることを声に出すことで他病院や他職種との交流が深まれば、一緒に活動する仲間ができるかもしれない(西谷, 表 1-4)。輸血看護業務の問題点を看護師だけで見直すことは難しくても輸血認定医、輸血認定臨床検査技師と輸血医療チームを作れば、輸血看護の質を高め、安心して輸血療法を受けられる環境を提供していくことができる(中西・橋口, 表 1-17)。

まとめ

e-Newsの活動報告を振り返ると、臨床輸血看護師が様々な観点から安全な輸血実施のための取り組みを行っていることを再認識できる。自施設の臨床輸血看護師数が少なく活動しづらい場合でも合同輸血療法委員会の支援を受けて他施設の看護師と交流する場を作ることや、血液センターの協力を得て看護師向けの教育⁴⁾⁵⁾を行うこと等の取り組みが可能なので、仲間を作り臨床輸血看護師の活動を継続されることを期待したい。現在、e-Newsの発行は終了しているが、うまく活動できずに困っている臨床輸血看護師にとって活動のヒントになるよう有用な情報を共有できるように学会発表や学会誌への投稿など、臨床輸血看護師による継続的な情報の発信が望まれる。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

謝辞：e-Newsの臨床輸血看護師の活動報告の記事の取りまとめ、編集作業に協力していただいた(旧)情報出版委員会の松本真弓委員、日高陽子委員、上村知恵委員に深謝いたします。

文 献

- 1) 山崎喜子, 塗谷智子, 相内宏美, 他：学会認定看護師の看護師教育による輸血関連インシデント内容の変化. 日本輸血細胞治療学会誌, 61: 502-505, 2015.
- 2) 日本輸血・細胞治療学会ホームページ：学会認定・臨床輸血看護師制度都道府県別認定者数.
yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2019/05/f0c8426426483219abd911de90ef9ad4.pdf(2020年6月現在).
- 3) 西谷智穂：臨床輸血看護師の資格を取得したけど・・・どう活用する？日本輸血細胞治療学会誌, 60: 630, 2014.
- 4) 森下勝哉, 平塚紘大, 芳賀寛史, 他：血液センターが行う小規模医療機関の看護師向け院内輸血研修会の成果. 日本輸血細胞治療学会誌, 64: 784-788, 2018.
- 5) 小田秀隆, 東谷孝徳, 新谷尚子, 他：中小医療機関の看護師を対象とした輸血研修会. 日本輸血細胞治療学会誌, 65: 108-111, 2019.

ENHANCING THE ACTIVITIES OF CERTIFYING CLINICAL TRANSFUSION NURSES BY REFERRING TO THE ACTIVITY REPORTS IN NEWSLETTER

Noriaki Iwao

Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital

Keywords:

Certifying clinical transfusion nurses, Newsletter, Activity reports

©2020 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy
Journal Web Site: <http://yuketsu.jstmct.or.jp/>